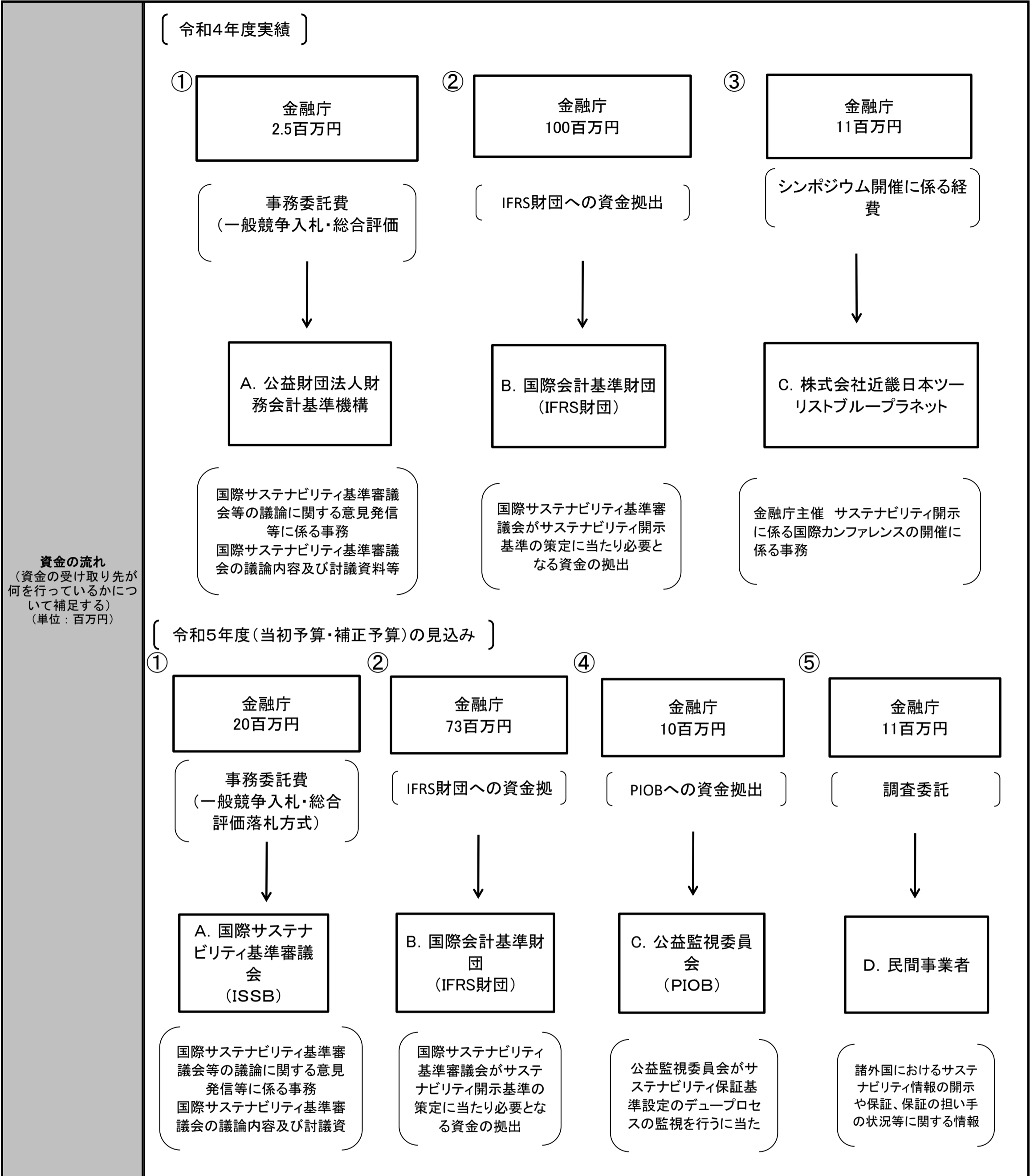


令和5年度行政事業レビューシート (金融庁)						
事業名	サステナビリティ開示及び保証の諸制度の調査等・人的資本に関する国際的な開示ルールの策定の推進			担当部局	企画市場局	作成責任者
事業開始年度	令和4年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	企業開示課	野崎 彰
会計区分	一般会計					
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	「フォローアップ」(令和4年6月7日閣議決定)	
政策	基本政策Ⅲ 市場の公正性・透明性と市場の活力の向上 横断的施策			主要経費	その他の事項経費	
施策	施策Ⅲ-2 企業の情報開示の質の向上のための制度・環境整備とモニタリングの実施 横断的施策-2 サステナブルファイナンスの推進					
政策体系・評価書URL	https://www.fsa.go.jp/seisaku/					
事業の目的(5行程度以内)	企業が資本市場参加者に対してサステナビリティ情報を開示する際に用いる基準策定及びサステナビリティ情報の信頼性を確保するための第三者による保証に関する基準策定に貢献し、日本からの意見発信の影響力を強化するとともに、人的資本をはじめとするサステナビリティ情報の開示の充実に向け、日本が国際的な基準策定をリードすること。 また、サステナビリティ開示基準の策定やその法令上の位置づけ、サステナビリティ情報に対する保証のあり方等の議論を進め、日本のサステナビリティ情報開示の充実を推進すること。					
現状・課題(5行程度以内)	現在、サステナビリティ情報に関する開示基準は国際的に多数存在しており、開示内容や開示対象等も多様である。そのため、企業が異なる基準に基づき開示すると投資家にとっては比較可能な情報が得られない等の課題が生じることから、統一的な開示基準を求める声が国際的に高まっている。 こうした中、国際会計基準財団(IFRS財団)により設立された、国際的なサステナビリティ開示基準の策定を行う国際サステナビリティ基準審議会(ISSB)は、最初のテーマとして気候関連開示の基準策定を行い、2023年6月に最終化したところであり、この基準はグローバルスタンダードとして確立する可能性が高い。 また、ISSBは気候の次の基準策定における優先アジェンダについての検討を開始したところであり、2023年8月末までに実施した意見募集の結果を踏まえ、今後の方針を打ち出す見込みである。こうした状況を踏まえ、人的資本を含むサステナビリティ情報の開示の充実を推進するため、基準策定のための国際的な議論に積極的に参画し、日本の意見が取り込まれた国際基準の実現を目指す必要がある。					
事業概要(5行程度以内)	○国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する議論の動向等を把握し、調査分析するとともに、国際的なサステナビリティ開示基準についての日本の考え方についての意見発信を強化するため、国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する質の高い情報の収集、日本として効果的な意見発信等に係る事務を、サステナビリティ報告に関する高度な専門知識を有する者に委託する。また、諸外国におけるサステナビリティ情報の開示や保証等について、現状や今後の動向など最新情報を集約・調査分析をする業務を、高度な知見を有する民間事業者に委託する。 ○人的資本を含むサステナビリティ情報の開示の充実を推進するため、IFRS財団により設立されたISSBが国際的な基準策定の取組みに使用するための資金を拠出する。また、サステナビリティ情報の信頼性を確保するための第三者による保証に関する国際的な基準策定に貢献するため、国際監査・保証基準審議会(IAASB)及び国際会計士倫理基準審議会(IESBA)を監視する公益監視委員会(PIOB)の活動に対して、日本から必要な資金を拠出する。 ○IFRS財団の幹部等、国内外の主要関係者を招聘し国際カンファレンスを開催することを通じて、日本が国際的な基準策定の議論をリードするための環境整備を行う。					
事業概要URL						
実施方法	委託・請負、その他					
補助率等	-					
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	当初予算(A)	-	-	20	20	21
	補正予算(B)	-	-	110	94	
	令和5年度第1次補正予算				94	
	前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
	翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
	予備費等(E)	-	-	-	-	-
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	130	114	21
	執行額(G)	-	-	113		
	執行率(%) =(G)/(F)	-	-	87%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/{(A)+(B)}	-	-	87%			
令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算項目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)	
	(項)	金融政策費			PIOB(公益監視委員会)では、サステナビリティ保証基準を設定するIAASB(国際監査・保証基準審議会)及びサステナビリティ保証に関する倫理・独立性基準を設定するIESBA(国際会計士倫理基準審議会)に対する監視を行っている。	
	(目)	金融政策業務庁費	20	21	日本政府からPIOBへ資金拠出を行い、その監視機関であるMG(モニタリンググループ)による基準設定主体の独立性確保に向けたガバナンス改革の進展に貢献するとともに、PIOBによるデュープロセスの監視機能の充実を図り、IAASB及びIESBAによるサステナビリティ関連基準を含めた国際基準の設定に貢献していく必要があることから、1.4百万円の増額要求となっている。	
		その他			「重要政策推進枠:21.5百万円」	
	計(A)		20	21		

活動内容① (アクティビティ)		国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する議論の動向等を把握し、調査分析するとともに、国際的なサステナビリティ開示基準についての日本の考え方についての意見発信を強化する。このため、国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する質の高い情報の収集、日本として効果的な意見発信等に係る事務を、サステナビリティ報告に関する高度な専門知識を有する者に委託する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する議論に積極的に参画する。	各種報告書作成のための国際会議等への参加回数	活動実績	件	-	-	4	-	-
				当初見込み	件	-	-	9	9	9
↓										
成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		国際会議への参加等を通じた、国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する質の高い情報の収集、日本として効果的な意見発信を実施する。これにより、国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する議論に積極的に参画できることから、成果目標として設定。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		国際会議への参加等を通じ、国際的なサステナビリティ開示基準の策定に関する質の高い情報を収集し、国際的なサステナビリティ開示基準の策定への貢献及び日本からの意見発信を強化する	-	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		サステナビリティ報告に関する高度な専門知識を有する者において、ISSBにおける議論の情報を収集するとともに、国内外のISSB関係者や、各国のサステナビリティ開示基準設定主体との意見交換を通じて国際的な意見発信を実施した。こうした働きかけ等を受けて、ISSBの「気候関連開示基準」案に関して、日本の関係者からの意見が取り入れられた。								
アウトカム設定について の説明		<p style="text-align: center;">アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由</p> <p>ISSBは、最初のテーマとして気候関連開示の基準策定を進め、2023年6月に最終化したところ。また、ISSBは気候の次の基準策定における優先アジェンダについての検討を開始したところであり、2023年8月末までに実施した意見公募の結果を踏まえ、今後の方針を打ち出す見込みである。現段階でのISSBによる基準策定の動向に関する調査・分析の結果や意見発信の成果については、最終化されたばかりの気候関連開示の基準策定への日本からの意見の反映状況や、今後のISSBの基準策定に関する方針を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため。</p> <p style="text-align: center;">アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由</p> <p>「アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由」に記載のとおり、ISSBによる基準策定の動向に関する調査・分析の結果や意見発信の成果については、最終化されたばかりの気候関連開示の基準策定への日本からの意見の反映状況や、今後のISSBの基準策定に関する方針を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため、短期的な成果を評価し、段階的なアウトカムを設定することが困難である。</p>								
活動内容② (アクティビティ)		人的資本を含むサステナビリティ情報の開示の充実を推進するため、IFRS財団により設立されたISSBが国際的な基準策定の取組みに使用するための資金を拠出する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		IFRS財団への資金拠出	拠出額	活動実績	百万円	-	110	100	-	-
				当初見込み	百万円	-	110	100	73	-
↓										
成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		ISSBにおいて、日本が重視する人的資本を含むサステナビリティ開示に係る基準策定を行うに当たって必要となる資金を、政府からIFRS財団に対して拠出することで、人的資本をはじめとするサステナビリティ情報の開示の充実に向け、日本が国際的な基準策定をリードすることにつながるため、成果目標として設定。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		ISSBがサステナビリティ開示基準策定のために必要となる資金を、政府からIFRS財団に対して拠出することを通じ、日本が国際的な基準策定をリードするための効果的な意見発信を行う	-	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		ISSBが人的資本をはじめとするサステナビリティ開示基準策定のために必要となる資金を、政府からIFRS財団に対して拠出することで、ISSBの活動を金銭面から支援した。こうした日本からの支援等を踏まえ、ISSBが公表した、次の基準策定における優先アジェンダを決定するための市中協議において、日本が重視する人的資本が4つのプロジェクト候補の1つとして提示された。								
アウトカム設定について の説明		<p style="text-align: center;">アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由</p> <p>ISSBは、最初のテーマとして気候関連開示の基準策定を進め、2023年6月に最終化したところ。また、ISSBは気候の次の基準策定における優先アジェンダについての検討を開始したところであり、2023年8月末までに実施した意見公募の結果を踏まえ、今後の方針を打ち出す見込みである。現段階でのISSBによる基準策定の動向に関する調査・分析の結果や意見発信の成果については、最終化されたばかりの気候関連開示の基準策定への日本からの意見の反映状況や、今後のISSBの基準策定に関する方針を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため。</p> <p style="text-align: center;">アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由</p> <p>「アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由」に記載のとおり、ISSBによる基準策定の動向に関する調査・分析の結果や意見発信の成果については、最終化されたばかりの気候関連開示の基準策定への日本からの意見の反映状況や、今後のISSBの基準策定に関する方針を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため、短期的な成果を評価し、段階的なアウトカムを設定することが困難である。</p>								

活動内容③ (アクティビティ)	IFRS財団の幹部等、国内外の主要関係者を招聘し国際カンファレンスを開催することを通じて、日本が国際的な基準策定の議論をリードするための環境整備を行う。								
↓									
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	国内外から官民の関係者を招いた国際カンファレンスの開催。	国際カンファレンスの開催回数	活動実績	回	-	-	1	-	-
			当初見込み	回	-	-	1	-	-
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	日本で国際カンファレンスを開催することにより、日本が重視する人的資本をはじめとするサステナビリティ開示に対する関心を高めるとともに、日本企業の取組みを直接ISSBに伝え、効果的に国際的な意見発信を行うことが可能なため、成果目標として設定。							
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
	国内外から官民の関係者を招いて国際カンファレンスを開催することを通じた、ISSBに対する国際的な働きかけの実施	-	成果実績	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	
達成度			%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	国内外から、IFRS財団の幹部を含む官民の著名な有識者を招き、「金融庁主催 サステナビリティ開示に係る国際カンファレンス」を開催し、会場・オンラインでの参加者を合わせ約1,000人が参加した。(令和5年3月開催)。								
アウトカム設定について の説明	アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
	ISSBは、最初のテーマとして気候関連開示の基準策定を進め、2023年6月に最終化したところ。また、ISSBは気候の次の基準策定における優先アジェンダについての検討を開始したところであり、2023年8月末までに実施した意見公募の結果を踏まえ、今後の方針を打ち出す見込みである。現段階でのISSBによる基準策定の動向に関する調査・分析の結果や意見発信の成果については、最終化されたばかりの気候関連開示の基準策定への日本からの意見の反映状況や、今後のISSBの基準策定に関する方針を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため。								
	アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								
	「アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由」に記載のとおり、ISSBによる基準策定の動向に関する調査・分析の結果や意見発信の成果については、最終化されたばかりの気候関連開示の基準策定への日本からの意見の反映状況や、今後のISSBの基準策定に関する方針を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため、短期的な成果を評価し、段階的なアウトカムを設定することが困難である。								
活動内容④ (アクティビティ)	サステナビリティ情報の信頼性を確保するための第三者による保証に関する国際的な基準策定に貢献するため、国際監査・保証基準審議会(IAASB)及び国際会計士倫理基準審議会(IESBA)を監視する公益監視委員会(PIOB)の活動に対して、日本から必要な資金を拠出する。								
↓									
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	PIOBへの資金拠出	拠出額	活動実績	百万円	-	-	-	-	-
			当初見込み	百万円	-	-	-	10	-
↓	成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	PIOBにおいて、IAASB及びIESBAといった国際監査・倫理基準設定主体のデュープロセスの監視を行うに当たって必要となる資金を、政府からPIOBに対して拠出することで、サステナビリティ情報の信頼性を確保するための第三者による保証に関する国際的な基準策定に対する日本の意見発信における影響力の向上につながり、国際的に高品質な保証の実現に貢献することができるため、成果目標として設定。							
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
	PIOBが国際監査・倫理基準設定主体のデュープロセス監視のために必要となる資金を、政府からPIOBに拠出することを通じ、日本が国際的な基準策定に対して影響力の強い意見発信を行う	-	成果実績	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	
達成度			%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由								
	PIOBがデュープロセスを監視する国際監査・倫理基準設定主体の1つであるIAASBは、2023年8月に新しい国際サステナビリティ保証基準(ISSA5000)の公開草案を公表し、今後、最終化に向けた国際的な議論が進む見込みである。現段階でのIAASBによる基準策定に対する日本の意見発信の成果については、今後、議論される過程での日本からの意見の反映状況や、最終化される新基準の内容等を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため。								
	アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由								

活動内容⑤ (アクティビティ)		日本のサステナビリティ情報開示の充実を推進するため、諸外国におけるサステナビリティ情報の開示や保証、保証の担い手の状況等について情報を集約・調査分析をする業務を、金融に関する高度な知見を有する民間事業者に委託する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ⑤ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		サステナビリティ情報の開示・保証に関する委託調査を通じた実態把握	委託調査実施件数	活動実績	件	-	-	-	-	-
				当初見込み	件	-	-	-	1	-
↓										
成果目標⑤-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		諸外国におけるサステナビリティ情報の開示や保証、保証の担い手の状況等を調査・分析をすることで、サステナビリティ基準委員会(SSBJ)により、既に検討が開始している我が国のサステナビリティ開示基準の策定について、国際的に整合性のとれた、適切な基準となるよう国内関係者と協議が可能となる。さらに、サステナビリティ保証についても、IAASBIにより開発が進められている国際基準が、我が国の保証基準の基礎として支障ないものとなるよう、国際的な議論に参画していくことが可能となるため、成果目標として設定。								
成果目標及び成果実績 ⑤-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 年度	
		我が国におけるサステナビリティ開示基準の策定に向けた協議及びIAASBIにおけるサステナビリティ情報に対する保証の国際基準策定の議論への参画。		成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績										
アウトカム設定について の説明		<p style="text-align: center;">アクティビティ⑤について定性的なアウトカムを設定している理由</p> <p>国内のサステナビリティ情報の開示基準については、SSBJにおいて2024年3月末までに、公開草案が公表される見込み。また、サステナビリティ情報に対する保証の国際基準については、IAASBIにおいて、2024年9月までに最終化する予定。現段階での諸外国のサステナビリティ情報の開示・保証に関する調査・分析の結果や議論への参画の成果については、それぞれ、開示基準の公開草案が国際的に整合性が取れているかや、今後最終化される保証の基準策定への日本からの意見の反映状況、IAASBIの基準策定に関する方針等を総合的に勘案して評価するべき性質のものであるため。</p> <p style="text-align: center;">アクティビティ⑤についてアウトカムが複数設定できない理由</p>								
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定 等	名称	-								
	URL	-								
	該当箇所	-								
事業所管部局による点検・改善										
点検結果		<p>①について、サステナビリティ報告に関する高度な専門知識を有する者において、ISSBIにおける議論の情報を収集するとともに、国内外のISSB関係者等との意見交換を通じて国際的な意見発信を実施した。こうした働きかけ等を受けて、ISSBの基準案に関して、日本の関係者からの意見が取り入れられた。</p> <p>②について、ISSBIによる開示基準策定のための資金を、政府からIFRS財団に対し、ISSBの活動を金銭面から支援した。こうした日本からの支援等を踏まえ、ISSBが公表した次の優先アジェンダを決定するための市中協議において、日本が重視する人的資本が4つのプロジェクト候補の1つとして提示された。</p> <p>③について、国内外の著名な有識者を招き、「サステナビリティ開示に係る国際カンファレンス」を開催し、会場・オンラインでの参加者を合わせ約1,000人が参加した。その結果、国内外での人的資本をはじめとするサステナビリティ開示に対する関心を高めるとともに、日本の意見を発信することができた。</p>					目標年度における効果測定に関する評価(令和〇年度実施)			
改善の 方向性		①について、令和4年度の事務委託先の選定にあたっては、一般競争入札(総合評価落札方式)を実施し、入札への参加意向を示した者は複数あったものの、実際に入札したのは一者のみであった。今後は、新規に受注を希望する者が必要な準備を行うことができるよう、公告日から入札書提出期限までの期間を更に十分に設定する。また、仕様書や入札説明会で丁寧な内容説明を行うこと等により競争性を高め、コストの削減につながるよう努めていくこととする。								
外部有識者の所見										
長期アウトカムについて、本事業の成果をより詳細に検証できるよう、可能な限り具体的に記載してはどうか。										
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見										
現状通り		○引き続き、調達に際しては、競争性の確保に努め、経費削減を図っていくこと。 ○外部有識者の所見を踏まえ、適切な目標設定を検討していくこと。								
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況										
現状通り		○長期アウトカムについてより適切な目標設定ができるか検討する。 ○本経費については、効率的な予算執行の観点から、コスト削減に努めていくこととするが、令和6年度においては、PIOBへの資金拠出により経費の増額が見込まれることから、前年比1.4百万円の増額となる予算要求を行っている。								



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.			B.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費(委託費)	公益財団法人財務会計基準機構への、国際サステナビリティ基準審議会の議論内容及び討議資料等の調査分析等に係る事務の委託	1.6	拠出金	国際会計基準(IFRS)財団への拠出	100
雑役務費(委託費)	公益財団法人財務会計基準機構への、国際サステナビリティ基準審議会等の議論に関する意見発信等に係る事務の委託	0.9			
計		2.5	計		100
C.			D.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費(委託費)	株式会社近畿日本ツーリストブループラネットへの「金融庁主催 サステナビリティ開示に係る国際カンファレンス」の開催に係る業務の委託	11			
計		11	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	公益財団法人財務会計基準機構	4010005014503	国際サステナビリティ基準審議会の議論内容及び討議資料等の調査分析に係る事務の委託	1.6	随意契約(不落・不調)	1		-
2	公益財団法人財務会計基準機構	4010005014503	国際サステナビリティ基準審議会等の議論に関する意見発信等に係る事務の委託	0.9	一般競争契約(総合評価)	1		-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国際会計基準(IFRS)財団	-	国際会計基準(IFRS)財団への拠出	100	その他	-	-	-

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社近畿日本ツーリストブループラネット	4010001148932	「金融庁主催 サステナビリティ開示に係る国際カンファレンス」の開催に係る業務の委託	11	随意契約(企画競争)	1		-
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	